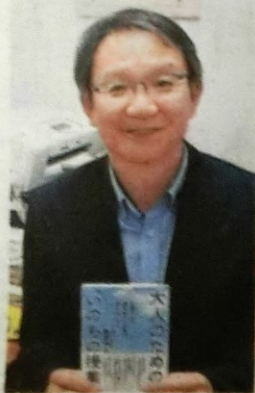


いのちの大切さ 41の実話で伝える

「大人のための『いのちの授業』」を書いた鈴木中村さん
名古屋市中村区



小児がんで6歳の長女を亡くし、いのちの大切さを伝える活動を続けているNPO法人「いのちをバトンタッチする会」(名古屋市中村区)の鈴木中村代表(59)が、「いのち」にまつわる41の実話をつづった著書「大人のための『いのちの授業』～小児がんで娘を亡くした私が伝えたいこと」(致知出版社)を出版した。

鈴木さんの長女景子ちゃんは1995年、小児がんでこの世を去った。6歳の誕生日に夢だったウェディングドレスを着て撮った1枚が遺影となった。

6歳の娘亡くした父が出版

いのちの大切さを伝えたいと、10年前にNPO法人を設立。学校や企業などで計1千回以上、延べ約25万人に講演してきた。

本では、自身の体験に加え、活動を通して知り合った人たちの話を紹介。体重326gで産まれた障害がある子どもとその家族の物語や、4千人をみとったホスピスの医師の話などがつづられている。鈴木さんは「大人こそ大切なものに思いをはせて欲しい。読者が『いのち』を見つめ直すきっかけになれば」と話した。189頁。1200円(税抜き)。

小児がんで亡くなった景子ちゃん
鈴木中村さん提供

